新著紹介

世界に於ける希臘文明の潮流

文學博士　坂口昂著

希臘文明が一般世界文明に對して重要なる意義を有することは自明の事實として何人も之を認める。從來之を特別な題目として纏まつた著述のなかつたことに對しても恐く其れが自明の事實と認められて居るといふことが一の因をなして居るのではあるまいか。併し此事の that は自明であつても其 what 及び how に就ては尙ほ、單に吾々門外漢に取つて幾多未知の圏域があるのみならず、專攻學者に對しても多くの研究の餘地が殘されて居る、殊に希臘文明の東方傳播の情況といふが如きに至つては現に一部學者の探求心をそゝる重要題目となつて居るといふ。本書は「從來未だ試みられざりし」此好題目を捕へて、「西ジブラルタより東印度までの古代世界を主とし、吾人の棲息する近代世界に亘りて貫流するヘレニズム文化の主潮を世界史的見地に立ちて追究闡明」したものであつて、先づヘレニズム時期の希臘文化及び其背景としての其以前の希臘文化の叙説に筆を起し、希臘文明の東方傳播、其の羅馬に及ぼした影響、古代の宗教界と希臘文明、近代文化と古典等と順を追ふて極めて明快にして精彩ある筆致を以て叙説されて居る。殊に著者が重きを置いた古代の部は著者獨特の舞臺として上古東西諸文化の紛糾した關係をば巧みに分解究明してあるところ最多くの示教と深き興味とを吾々に與へる。題し「に於ける希臘文明の潮流」といふも、其希臘文明が世界文明の重要契機となつて居る結果として、吾々は此書をば多少の制限を以て、希臘文化を中心として書かれた、上下二千五百年に亘つた世界文化史と見て差支ないと思ふ。從つて吾々は其れが、此種の著述を缺いで居つた我邦に於て廣く一般讀書社會に歡迎せらるべきものであると信ずるが、併し予は特に西洋哲學の研究者及び學習者に之を薦めたい。何となれば西洋哲學は大體希臘思想の影響及び刺激と消長を共にして居ると思はれるからである。中世基督教哲學は原始基督教が漸次希臘思想を取入れ、之を類化し、之に應化することによつて興つた。近世哲學は希臘古典の直接研究を通して興つた。カント直後の獨逸最盛期の哲學も亦た其直前及び當時の詩人、批評家、哲學者等の希臘憧憬、希臘研究熱を主要なる素地及び背景として居る。現代新理想主義の勃興の如き亦、前世期中葉以後閑却されて居た「フマニスムス」鼓舞の聲と伴つて居る。而して是等種々の時期の哲學に對する重要なる文化背景は此書に於て「簡明平易に」、併しあくまでも研究的態度を以て、而して著者獨特の筆致と、著者自身の「實地の踏査、實物の觀察等」と、添附された一百餘圖の挿畫と相俟つて直觀的に、吾々の前に展開せられて居る。東京神田文會堂發行　二圓五十錢（朝永三十郎）

カントと現代の哲學

文學博士　桑木嚴翼著

我國民的文化意識を眞の意味で豐富にし深化して行く上に、最